

学力調査結果について

1 概要

【平均正答率】

	国語	算数
泊小学校	66	70
鳥取県	64	69
全国	64.7	70.2

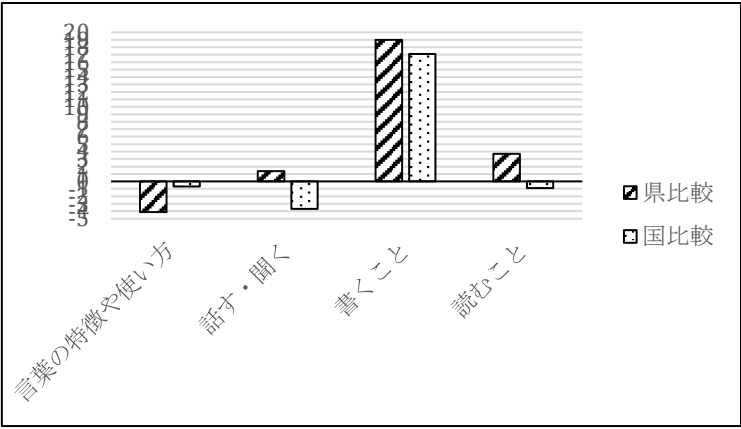
【平均正答数】

国語 (全14問)	算数 (全14問)
9.2	11.2
8.9	11.0
9.1	11.2

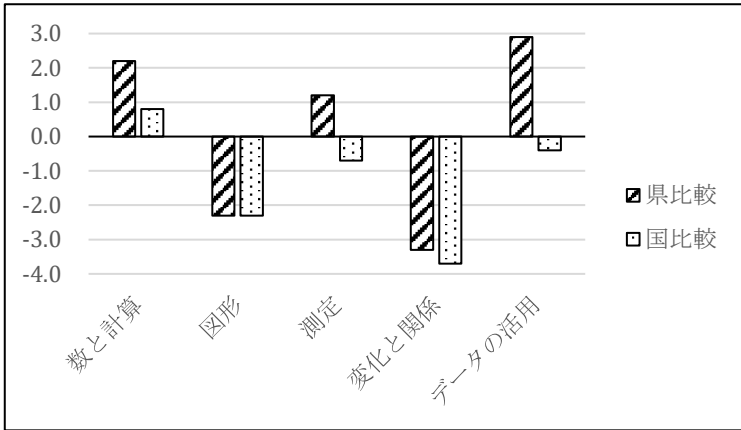
- ・国語は、平均正答率（全体）で全国平均及び県平均を上回っている。領域別に見ると、知識・理解「①言葉の使い方」は全国平均、県平均とも下回った。思考・判断・表現力「B書くこと」は全国平均及び県平均を上回っている。「A話すこと・聞くこと」「C読むこと」は県平均を上回っているが、全国平均を下回った。
- ・算数は、平均正答率（全体）は、ほぼ平均並みであった。領域別に見ると、「数と計算」は全国平均及び県平均を上回っている。また、「測定」「データの活用」も、県平均を上回っているが、その他の領域は全国平均を下回った。

2 領域別正答率比較（単位はポイント）

【国語】



【算数】



3 問題別正答数と分析（全国比 10 ポイント以上差があったもの。pt はポイント）

【国語】

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(全国比)と分析
1 三	津田梅子についての【スピーチ】の練習の一部分で話す内容として適切な資料を選択する。	目的や意図に応じ、資料を使って話す。	▲66.7% (−14.3pt) 資料が何を意味しているのか読み取れていないため、話者の意図を捉えるための資料を選べていない。
2 二	面ファスナーに関する【資料】の文章の中の「より」と同じ使い方として適切なものを選択する。	思考に関わる語句の使い方を理解し、語や文章の中で使う。	◎100% (+12.5pt) 比較の対象として取り上げる場合の「～は～より」の使い方が捉えられていた。
3 二	丸山さんの文章の下書きの一部分を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す。	目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。	◎83.3% (+26.7pt) 反対する意見、その理由を明確にし、文字数などの条件を満たして文章を書くことができていた。
3 三 (1)ア	漢字を使って書き表す。(ころがっている)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。	◎88.9% (+10.6pt) 文の中で正しく書くことができていた。
3 三 (1)ウ	漢字を使って書き表す。(つみ重ね)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。	▲38.9% (−15.5pt) 《誤答例》 重み(2名)、積み(2名) 責み、罪み、折み
3 三 (1)エ	漢字を使って書き表す。(げんいん)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。	▲61.1% (−17.9pt) 《誤答例》 源因(3名)、現因(2名) 原圀、原員
3 三 (1)イ	主語として適切なものを選択する。	文の中における主語と述語との関係を捉える。	◎77.8% (+10.8pt) 主語と述語が複数ある文において、主語と述語の関係を捉えることができていた。

【算数】

番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(全国比)と分析
1 (1)	二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く。	二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる。	▲50.0% (−12.5pt) 式のための解答で、道のりの差の求め方と答えを言葉を用いて説明できていない。二つの道のりの求め方の説明はできているがどちらが長いのか答えていない
1 (2)	500mを歩くのに7分かかかることを基に、1000mを歩くのにかかる時間を書く。	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる。	◎100% (+13.3) 道のりと時間の関係について、道のりが2倍になっていることを基に、時間も2倍にすることができていた。
1 (3)	㊦と㊧の二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ。	速さを求める除法の式と商の意味を理解している。	▲27.8% (−28.0pt) 除法の式と商の意味を理解できていない。また、求めた商を比べたとき、数値が小さい方が速いと捉えていた。
1 (4)	午後1時35分から50分間後の時刻を書く。	条件に合う時刻を求めることができる。	◎100% (+10.8pt) 正午をまたいだ午後1時35分の50分後の時刻を求めることができていた。
2 (3)	二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く。	複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる。	▲33.3% (−12.7pt) 平行四辺形の面積を求める公式と三角形の面積を求める公式を混同している。二等辺三角形の斜辺を高さと捉えている。「底辺」「高さ」などの正しい言葉を使って説明できていない。
3 (3)	「114」は二次元の表のどこに入るかを選ぶ。	データを二次元の表に分類整理することができる。	▲44.4% (−12.5pt) 2次元の表の読み方、書き方が理解できていない。
4 (1)	余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く。	示された減法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる。	◎94.4% (+11.4pt) 余りの5個のボールを入れる箱がもう1箱必要であると判断することができていた。
4 (2)	8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く。	商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算することができる。	▲44.4% (−11.1pt) $8 \div 4 = 2$ と解答しているものが多い。
4 (3)	30mを1としたときに12mが0.4の当たるわけを書く。	小数を用いた倍の数についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる。	◎66.7% (+15.2pt) 30mを1としたとき、0.1に当たる長さが3mになることが理解できており、12mは3mの四つ分になることも理解できていた。

4 考察

- ・「目的や意図に応じ、資料を使って話すことができる」問題では、津田梅子の業績「女性の英語教師を育成したこと」の紹介の中で、資料④（卒業生の勤務校のある場所）を使って話すということが捉えられているが、資料④（卒業生の勤務校のある場所）の読み取りができていなかったため、「社会に出て活躍する女性を世の中に送り出した」ということを伝えたいという上野さん（話者）の意図を捉えられなかったと考えられる。音声言語だけでは、聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などには、資料を使いながら話すことが重要で、その際には、相手や目的を意識し、どのような資料を用意すればよいかを考えたり、資料を提示しながら話す仕方について、国語科の学習はもちろんのこと、日常生活においても充実させていきたい。
- ・「理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」記述問題の正答率が高かった。「そうじ担当の人などがかたづければよい」という考えに反対する意見とその理由を【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて、60字以上100字以内で書いていた。意見を述べる文章を書く場合、文章全体の構成を工夫したり、理由を明確にすることはもちろん、読み手に向けて書く文章であることを意識し、漢字を正しく書くこと、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係に気を付けて書くこと、自分の書いた文章を読み返す（推敲）ことも合わせて指導していきたい。
- ・「説明的な文章を読み、分かったことをまとめる」記述問題は正答率が低かった。無解答はないものの、文章と図表を結び付けて必要な情報を見付けたり、中心となる語や文を見付けて要約したりすることができていなかった。目的に応じて文章と図表など複数の情報を結びつけて考えを形成するとともに、説明文や解説文など、いろいろな文章に読み慣れることが必要と考える。
- ・「漢字を文の中で正しく使うことができる」問題は、正答率が低かった。中学年から高学年にかけては、漢字は自分で文章を書くためのツール、生活の中で使うという意識を持って習得させていく必要がある。習った漢字を使って書く、漢字の成り立ちや熟語の意味を調べる、進出漢字を使って短文を作るなどの活用を通し、語彙を増やす指導も必要である。
- ・「二つの速さを求める式の意味について正しいものを選ぶ」問題の正答率が低かった。⑦ $1600 \text{ (m)} \div 20 \text{ (分)} = 80$ ④ $500 \text{ (m)} \div 7 = 71.4 \cdots$ 道のりと時間の関係について、示された除法の式が1分間当たりの道のりを求めるための式であることを理解し、その商を基に⑦と④のどちらが速いかを捉えることが必要であるが、数値が小さい方が速いと捉えている児童が多かった。また、商の意味を1mあたりにかかる時間と捉えている児童もいた。異種の二つの量の割合として捉えられる数量に関わる数学的活動を通して、単位量あたりの大きさの意味及び表し方について理解し、単位量あたりの大きさをを用いて比べることができるようにすることが大切である。
- ・「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」記述問題では、 $6 \times 2 = 12 \text{ (cm)}$ $5 \times 12 = 60 \text{ (cm}^2\text{)}$ と式のみの解答、高さを求める式や言葉がないもの、高さを二等辺三角形の斜辺の6.5cmの2つ分と捉えて、 $5 \times 13 = 65 \text{ (cm}^2\text{)}$ と解答しているもの、「底辺」を「よこ」、「高さ」を「たて」と書いているものもあった。また、平行四辺形の面積を求める公式を三角形の面積を求める公式と混同し「底辺×高さ÷2」としているものもあった。図形の計量について、三角形や平行四辺形の底辺と高さの関係の理解を確実にし、図形を構成する要素などに着目して、求積のためにどの部分の長さを測る必要があるかを考えることで、基本図形の面積を求める公式の理解を深め、活用できるようにすることを大切にしたい。その際、正しい用語を使い、筋道立てて説明することを習慣づけたい。

学習状況調査結果について

1 生活習慣や学習習慣に関する項目

- 「朝食を毎日食べていますか」
 - ・本校児童は、「している」「どちらかといえばしている」が94.5%であるが、県(95.9%)全国(94.9%)を下回り、「あまりしていない」5.6%も気になるところである。朝食や睡眠の大切さについて、保健指導などを通して引き続き指導していきたい。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」
 - ・本校児童は、「よくしている」16.7%で、県(30.5%)全国(31.2%)を下回るが「ときどきしている」を合わせると72.3%になる。「全くしていない」「あまりしていない」と回答している児童が27.8%いる。「1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では、「1時間以上2時間未満」が33.3%で最も多く、「30分未満」16.7%「全くしない」5.6%あった。湯梨浜町家庭学習の手引きを目安に、毎日決まった時間、机に向かう学習の習慣づけたい。また、「学校の授業時間1日以外に1日当たりどれくらいの時間読書をしますか」では、「全くしない」22.2%、「10分未満」11.1%、「新聞を読んでいますか」では、「ほとんど、または、全く読まない」72.2%の割合も多く、本だけでなく新聞読書の推進を図りたい。自主学習と合わせて、普段(月～金)全く読書をしない児童(16.8%)への指導も合わせて行っていきたい。
- 「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」
 - ・本校児童は、22.2%の児童が「もっていない」と回答しているが、もっている児童の中で「きちんと守っている」が22.2%で、県(39%)全国(38%)を下回っている。「だいたい守っている」を合わせても61.1%で県、全国を下回っている。「あまり守っていない」5.6%、「約束はない」11.1%もある。また、「平日1日あたりどれくらいの時間ゲーム(通信機器を使ったもの)をしますか」という問いに対しても22.2%の児童が3時間以上と答えている。通信機器の使い方やメディアとの関わりについて、ノーメディアチャレンジデーを設け、保護者と連携して取り組んでいるところであるが、さらに研修や保護者啓発を行っていきたい。

2 自分に関する項目(挑戦心・達成感・規範意識・自己有用感)について

- 「自分には、よいところがありますか」
 - ・本校児童は、「あてはまる」が55.6%で県(38.2%)全国(36.2%)を大きく上回っている。「どちらかといえばあてはまる」を合わせると88.9%となる。学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性をみつける、ほめるなどの取り組みを引き続き充実させていきたい。「当てはまらない」と回答している児童が5.6%あるので、自己肯定感を高める関わり方や自己有用感につながる声かけをしていきたい。
- 「将来の夢や目標をもっていますか」
 - ・本校児童は、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が72.2%で県(78.6%)全国(80.3%)を下回っている。「当てはまらない」「どちらかという当てはまらない」32.8%と回答している割合も全国、県平均と比べて高い。児童会活動や行事などで目標をもって取り組み、成就感や達成感を味わわせることが自尊感情や自己有用感を高めていきたい。
- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」
 - ・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が100%である。「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」という質問項目に対しても「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」77.8%で県(74.1%)、全国(70.9%)を上回っている。

る。最後までやり遂げた達成感・成就感や成功体験を積み重ねることで、自信がもてるようにしていくことが大切である。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」

・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が 100%となっている。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

・本校児童は、「当てはまる」72.2%で県（82.7%）全国（84.1%）を下回っている。いじめられる側にも理由があると考えているのか、遊びや悪ふざけはよいと考えているのか、個々がどう考えているのか把握し、いじめられる側の悲しみや痛みは深刻で許されないこと、はやしたてたり傍観的な立場はいじめをしていると同じことであること、トラブル解決の方法などを指導する必要がある。また、児童の心が満たされるよう、いじめをしない心の環境づくり、仲間づくりをしていくことが必要である。

○「学校に行くのは楽しいですか」

・本校児童は「当てはまる」27.8%で、県（41.7%）全国（47.9%）を大きく下回り、「当てはまらない」11.1%は県（6.0%）全国（5.2%）を上回る。児童アンケートを取り、さらに詳しく分析していくことが必要である。

3 教科の学習等に関する項目について

○「国語の学習は好きですか」

・本校児童は、「当てはまる」33.3%で県（23.6%）全国（22.7%）を上回り、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると 61.1%である。「国語の授業の内容はよくわかりますか」の質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が 88.8%で県（84%）全国（84.2%）を上回り、わかることが学ぶ意欲につながっていると考えられる。

○「算数の勉強は好きですか」

・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が 55.1%で県（67.4%）全国（67.8%）を下回っている。「算数の勉強は大切だと思いますか」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が 88.9%、「算数の授業の内容はよくわかりますか」の質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が 83.4%あり、このことから、算数の勉強は大切だと考え、学習内容は理解しているが、算数の学習は好きではないということがわかる。また、「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」55.5%は、県（73%）全国（73.9%）を大きく下回っている。日常生活と結びつき、興味をもって取り組む子ども主体の学習への授業改善が必要である。

○「英語の学習は好きですか」

・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」55.5%で、県（69.9%）全国（68.3%）を下回り、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」も 44.5%ある。「学校の授業以外で英語を使う機会がありましたか」では、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」が 72.2%もあり、県（61.1%）全国（55.4%）を大きく下回っている。児童が興味をもって取り組み楽しいと感じる英語学習の工夫が必要である。

○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」

・本校児童は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」61.1%で、県（82.2.%）全国（81.1%）を下回っている。「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が 100%であり、また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできますか」という質問に対しては、「当てはまる」「どちらかといえば

当てはまる」が 94.4%で、県（80.7%）全国（78.8. %）を大きく上回っている。友達と意見を交流するような展開、道徳学習の指導法の工夫が必要である。

- 「学校で、コンピューターなどの I C T機器を、どの程度使用していますか」
 - ・本校児童は、「月 1 回未満」66.7%と回答している児童の割合が多い。「学習の中でコンピューターなどの I C T機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問では、「役に立つと思う」88.9%で県（70.0%）全国（66.1%）を大きく上回り、また、「どちらかといえば役に立つと思う」を合わせると 100%となる。I C T機器は役に立つが、学校の学習の中で積極的に活用できていないことがわかる。児童一人一人に配備されたタブレット端末を学習の中で積極的に使っていく必要がある。

今後の取り組みについて

★学び方について

- 低学年からの積み上げ（指導事項をおさえた指導）
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
- 言語活動の充実
 - 資料活用
 - 思考の整理
 - 考え方や理由を筋道立てて説明する学習過程の設定

★国語について

- 図表やグラフ、絵、写真を読み取り、効果的に用いたり、文章と図表やグラフなどとを関連付けて自分の考えをまとめたりする指導をしていく。国語科の学習だけでなく、**各教科の学習や日常生活においても充実させていく。**
- 漢字学習では、ていねいに書き続けて練習することだけでなく、同音の漢字についてイメージや意味を考えながら文の中で扱う学習の工夫をしていく。漢字辞典、国語辞典も活用し、語彙を増やす。習得した漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設け、定着を図る。
- 言語活動の充実を図る。（読書活動、辞書引きなどを通して児童の語彙を増やす。）

★算数について

- 算数の学習では、昨年度までに積み上げてきたいろいろな考えを出し、よりよい方法を話し合っていく活動を継続して行っていく。（「泊小スタンダード」の活用、子どもの学習活動・学びの継続）
- 答えが大体どのくらいなのかといった結果の見通しとどのように考えればよいのかという方法（既習学習の活用）の見通しを大切にする。答えを問題場面に照らして確かめる習慣をつける。
- 式の意味（その式が何を表しているか）を図や問題と照らし合わせながら考える活動を充実させる。
- 求め方や理由を話し合う活動を取り入れ、その際、算数用語、図形を構成する言葉や数、式を正しく用いるなど指導する。教師がコーディネートして、児童同士の対話を引き出すなど学習展開の工夫を図っていく。
- 誤りやすい例を取り上げる（教師が対話をしかける）ことやまちがいの原因を明らかにすることで、理解を深める。
- 情報をやメモを図に書き込んで整理する習慣をつける。
- 学習したこと（グラフ作り、二次元の表作りなど）を学習の中や生活の中で活用する。（総合的な学習、委員会活動など）

★I C Tについて

- I C T環境の整備、活用
- I C T活用に関する教職員研修の充実

★その他

- 全国学力・学習状況調査のように、多くの情報量を限定された時間の中で正しく読み取る力は、日頃の読書量が大きく左右すると考える。家庭と連携しながら、読書や新聞読書の推進を図っていきたい。
- 朝食、計画的な家庭学習、読書の習慣、情報機器と関わりなど課題が見られた項目については、保護者アンケートやP T A活動（ノーメディアチャレンジデー）と関連させて、取り組んでいきたい。